

1 主な取り組み

幼保連携型認定こども園に移行しての1年目ということで、これまでの保育・教育をさらに深めるべく取り組んできました。特に「子どものやってみよう！」が実現できる環境づくりとはどういうものかに着目し、やらされる保育・教育ではなく、子どもが主体となり、能動的に活動することを意識してきました。新しい保育・教育観をすべての職員で共有するために、リーダー会議を中心に、学年会議・クラス会議・委員会・昼礼などの場面で議題として取り上げ、年間の行事においても、必ずそのことを重点目標に据え、取り組んできたことが、「普段の保育・教育の延長線上にある運動会であり、作品展であり発表会である」という思いをベースに進めてこられたように思います。ただ、どうしても「今まで」に縛られ、なかなか新たな発想に至らなかったり、既存の取り組みの中にも大切にしていきたいものがあることに気づいたり、まだまだ深めなければならないことはたくさんあり、試行錯誤の真最中と言えます。そういう観点から、ひいらぎこども園の研究保育を見学したり、研修委員が千葉木更津のわこう保育園に見学に出向いたりし、そこでの学びを園内研修という形で、報告したことは有意義であったと考えます。そんな中、環境設定の重要性を感じ取った職員から、思いきり土に触れる体験をさせたいという声上がり、次年度に向けた大きな目標設定につながったこと、またそれをサブリーダーが担うという体系が職員の中から生まれたことは、大きな収穫であったと思います。若年職員の定着が、大きな課題であった本園としては、若手が自主的に課題意識をもつことこそが、意欲につながっていくと感じ、そのことが結果的に定着を生むと考えます。

子どもたちの遊びの中こそ、真の学びがあるということから、広い園庭をはじめ自然物に触れる環境を最大限活用することを目指してきましたが、若手職員によるプロジェクトチームの立ち上げにより、さらに来年度充実することが期待されます。

他機関との連携として、子育て支援基幹センターや児童相談所と密に連携し、数回にわたりケース会議に参加した経験は、今、子どもたちが置かれている深刻な状況を再認識する機会となり、子どもやその保護者の気持ちに寄り添うということが、いかに難しくそして大切なことであるかを改めて強く感じる事となりました。これは、職員すべてにおいて持ち合わせるべき、カウンセリングマインドであり、これまでに学んできた、臨床発達心理の知識をもっと深め、職員の研修などにも、役立てていかねばならないと思います。



「職員育成・評価シート」の導入により、それぞれの職員がキャリアアップを目指し、自己を見つめる機会を得たことも収穫と考えます。年度途中に実施した「個別面談」では、本園が抱える問題点も見え、課題解決のために管理職がどのようなリーダーシップを発揮すべきか、改めて考える良い機会となりました。働き方改革の一環として、職員が10日の有休を消化できるよう体制を工夫したことは、離職防止にもつながっていると感じます。ただ、研修参加と有休消化とのバランスをうまくとるためには、ある程度人員に余裕が必要であると考えますが、園運営における人件費の膨張は抑えねばならず、大きな課題であると思います。

2 施設運営方針の実施状況

重点 全ての取組の中心は、人権尊重であることを再認識し、日々の活動は人権を大切にされたものであることを、職員全体で理解した取組を進めるようにする。

- ① 幼保連携型認定こども園教育・保育要領についての学びを深め、アクティブ・ラーニングの視点からの指導の改善を図るとともに、発達の連続性とそれに応じた学びの連続性を大切にする。 . . . ○
- ② 専門リーダーや職務別リーダー養成など、キャリアアップ研修の積極的な参加により、技能の習得を目指すとともに、処遇改善を行ったり年休を積極的に消化したりすることから、やりがいを感じ安心して働き続ける職場にしていく。 . . . ◎
- ③ 将来を担う若年職員をみんなで指導し、チームワークを伴った円滑な園の運営を行う。 . . . ○
- ④ 乳幼児期からの体力づくりを目指すために、「スポーツテスト結果から見た運動あそびの改善」に取り組む。 . . . ○
- ⑤ 支援を必要とする子どもの保育や保護者支援に対する職員の力量を高めるとともに、発達障がい（ADHDや自閉症スペクトラムなど）の子どもを焦点化した指導を行う。 . . . ◎
- ⑥ 栄養士を中心に食育の充実を図る。 . . . ◎
- ⑦ 科学好きな子どもを育成するため、広くなった園庭の環境作りを工夫するとともに、園内外の自然にふれる機会を意図的にもち、自然を愛する心情を育てるようにする。 . . . ○
- ⑧ 感染症に対する知識と対応力を身につけ、園内での感染症対策に全力を注ぐ。 . . . ◎

3 年間教育・保育日数

1号認定 238日（年長は234日）
2・3号認定 289日（年長は290日）

4 利用者数

◆榎島ひいらぎこども園 在園児数

歳		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0	短時間	3	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	標準	13	13	15	15	16	16	16	16	16	16	16	16
1	短時間	3	3	3	3	3	3	3	3	4	2	3	3
	標準	27	27	27	27	27	27	27	27	26	28	27	27
2	短時間	3	3	3	3	3	4	4	4	6	7	7	7
	標準	29	29	29	29	29	28	28	28	25	25	25	25
3	1号	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4
	短時間	2	2	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2
	標準	32	32	31	31	32	32	32	32	32	32	32	32
4	1号	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	短時間	4	4	4	4	4	4	4	4	5	4	4	4
	標準	32	32	32	32	32	32	32	32	31	32	32	32
5	1号	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	短時間	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	標準	32	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31
合計		189	189	189	189	189	189	190	190	189	190	190	190

◆一時預かり事業利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数 (人)	7	7	1	12	19	9	12	5	12	13	6	11
保育日数 (日)	20	19	20	22	17	19	22	20	20	19	20	20
1日平均 (人)	0.35	0.37	0.05	0.55	1.12	0.47	0.55	0.25	0.6	0.68	0.3	0.55
合計	114人 (1日平均0.48人)											

◆子育てサポート事業

◎園庭開放（毎週火曜日）年間利用者数 20名

- ・遊びに来た際に、園内の見学を希望されることが多い。
- ・園庭に出ている在園児に交じって遊ぶ姿がみられる。
- ・子育ての悩みを相談されることもある。

◎未就園児一時預かり（月1回土曜日）利用者数 6名

5 職種別職員数（令和2年3月31日現在）榎島ひいらぎこども園

	園長	主任	副主任	保育教諭	保育補助	看護師	栄養士	調理師	警備員	事務員	保全員	ボランティア	合計
正規職員	1	1	1	24		1	1	1					30
パート職員				17	6		1	1	1	1	1	1	29
合計	1	1	1	41	6	1	2	2	1	1	1	1	59

（正規栄養士のうち1名が育児休暇のため 代替え職員1名）

6 年間行事実施内容（資料 榎1）

7 職員研修内容

（1）園内研修

①救命救急講習

令和元年6月3日（月）

②リスクマネジメント研修

令和元年12月10日（火）

「水害対策について」

脇 貴志氏（株式会社 アイギス代表）

受講者 管理職2名

③キャリアアパス研修

令和2年1月31日（金）

「保育業界におけるキャリア

パス・キャリアアップ」

小林 雄二郎（エイデル

研究所 常務取締役）

受講者 保育教諭20名



④保育環境整備研修

令和2年2月27日(木)

「わこう保育園見学報告会」

伝達者 佐藤 歩香 高村 美紗

出席者 保育教諭 10名

(2) 派遣研修 (資料 槓2)

8 保健室利用実績・感染症による欠席状況

(1) 保健室利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数 (人)	25	29	38	22	28	25	28	23	32	13	25	9	297

(2) 病気早退延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
乳児	14	19	33	12	21	16	24	9	20	5	13	7	193
幼児	11	10	5	9	7	9	4	8	10	8	12	1	94
合計	25	29	38	21	28	25	28	17	30	13	25	8	287

(3) 病気早退理由

	発熱	嘔吐・下痢	リンゴ病	腹痛	体調不良	合計
乳児	161	31	0	0	1	193
幼児	53	34	1	1	5	94
合計	214	65	1	1	6	287

(4) 感染症による欠席状況(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
インフルエンザ		1						1	5	4	2		13
水痘			1										1
流行性耳下腺炎													0

りんご病				1									1
手足口病			7	16	1								24
溶連菌感 染症		2						3		3			8
アデノウイルス 感染症					1				1				2
RSウイルス 感染症							3				1		4
ヘルパン ギーナ			2										2
マイコプラズマ 肺炎							1						1
ウイルス 性胃腸炎	4									1			5
合計	4	3	10	17	2	0	4	4	6	8	3	0	61

10 課外教室参加者数

- ・ ジョニーのサッカースクール（講師 松下 洋亮氏）
（毎週水曜日 午後3時30分～4時30分まで）
参加者：年中6人 年長9人

- ・ 空手道場（講師 加藤 吉辰氏 加藤 映彦氏）
（毎週火曜日 午後3時30分～4時30分まで）
参加者：年中10人 年長9人

11 絵画作品の発表

- （1）第79回 全国教育美術展 入選 3
- （2）ギャラリートレイン（近江鉄道） 展示 3

12 実習生・インターンシップ・ボランティア・体験学習の受け入れ

（1）保育実習

- ・ 令和元年7月22日～8月2日 大阪こども専門学校 1名
10月21日～11月2日
- ・ 令和元年8月6日～8月23日 京都文教短期大学 2名

9月3日～9月14日
・令和2年2月10日～2月22日

京都文教大学 3名

(2) 学生ボランティア

令和元年8月5日・6日・7日

榎島中学2年生 5名

(3) 中学生職場体験

令和元年10月23日～25日

榎島中学2年生 4名

(4) 大学生ゼミ研修

令和元年5月24日(金)

京都文教大学2回生 10名

1.2 地域の老人介護施設との交流

グループホーム鳳凰榎島訪問①

令和元年5月29日(水)

グループホーム鳳凰榎島訪問②

令和元年9月18日(水)

ヴィラ向島訪問

令和元年9月11日(水)



1.3 保護者会との連携(取り組み)

(1) 夏祭り 令和元年 7月20日(土) 場所: 園庭・みどりのひろば
保護者会との協賛行事で、卒園児・地域住民の参加を募って実施



- (2) 演劇鑑賞 令和元年 12月17日(火) 場所: コスモスホール
人形劇団 京芸 「おもしろ劇場 2」
全学年の園児と保護者を対象に実施



1.4 社会貢献

- (1) 地域の美的環境整備 (園周辺の花壇や街路樹の管理)
花壇の花苗の植え付け・散水・除草・施肥・ゴミの清掃
- (2) 地域の運動広場の管理と運営 (京都府所有の芝生広場の管理)
芝生の散水、除草、芝刈り、施肥、ゴミ等の清掃
地域住民への利用許可等、管理と運営

1.5 苦情受付の状況

・令和元年 12月27日(金) 18時 保護者より入電

【内容】年長児の母親から、今 お迎えに行った際、段ボールなど大量のゴミを持って帰らされた。大掃除をしたとのことだが、この年末にゴミを持って帰らせるとはどのようなことなのかというもの。

【対応】担任はすでに帰宅していたため、園長が対応。ゴミに見えたその段ボールは当該園児が、遊びに使用していたもので、家に持ち帰って続きをやりたいという申し出により、持ち帰らせたものであったが、確かに、何の説明もなかったことは、こちらの落ち度であることを認め謝罪。段ボール等を引き取りにいかせてもらうことを告げたところ、もっていくとのこと、30分後、父親が持ってこられた。段ボール類を持って帰った子がほかにいなかったかを確認したところ、2名が持ち帰ろうとしていることが判明。子どもの思いを尊重しつつ、保護者に説明。1名は、保護者の意向を受け、園長が子どもを説得し、もう1名は「わかりました。大丈夫です」と持って帰ってくださった。

子どもの思いを大切にすることは、何より大切であるが、必ず説明することも忘れてはならないことを、担任に伝える。

1.6 施設設備

- ・ パソコン入れ替え 5台
ウインドウズ7にしか対応できないパソコンをウインドウズ10に対応できるものに変更しなければならなかったため。

施工日
施工業者 (株) サンワード
事業費 761,750 円

